

ジンコソーラーは第3四半期決算、予想を上回る業績を達成、年間出荷目標を調整

11月16日、ジンコソーラー（JnkoSolar Holding Co., Ltd.、NYSE: JKS）は2016年9月30日までの未監査の第三四半期決算を発表した。発表内容は太陽光発電製品の出荷量が1606MW、2015年の第3四半期に比べて41.6%増加した。総収益は57.0億元と前年同期に比べて39.0%の増加となった。粗利益率は業界をリードし、22.1%に達した。

ジンコソーラーの第3四半期の抜群増長について、ジンコソーラーのCEO チンカンピンさんは「挑戦的な状況下で、ジンコソーラーの業務成長の勢いが継続、モジュール出荷量が1606MWに達し、前年同期に比べて41.6%の増加となりました。業務現状及び第4四半期の予想に基づいて、年間出荷目標も6-6.5GWから6.6-6.7GWに引き上げました。」とコメントした。

業績増長の原因について、「第3四半期では弊社は大切な市場と新興市場でリード地位を強化しました。中国の市場需要まだ旺盛で、モジュールの価格も安定になりました。需要は次回の補助金削減が正式に発表する前に回復します。それも2017年前半で需要増長の原因になると思います。ジンコソーラーの新興市場は40ヶ国と地域に延びて、特にインド、チリ、メキシコ、アラブ首長国連邦等大切な市場でのリード地位を強化しました。」

「さらに、先進の技術おかげで業績を増長しました、ジンコソーラーは高効率製品の開発に取り組んで、競争優位性を向上します。ジンコソーラーのワイヤーカット（ダイヤモンド・ワイヤー（Diamond Wire, DW））の単結晶生産ラインが生産始め、生産能力を引き上げ、高効率PERC生産ラインをサポートします。業界のリーダーとして、ジンコソーラーはクライアントに高品質、高効率、信頼性の高い製品製を提供することに努力しています。」

決算によると下流太陽光発電プロジェクト発電量3.95億kWh、2016年第2四半期に比べて20.8%増加；発電量は2015年第3四半期に比べて69.0%増加。その中で、太陽光発電プロジェクトからの収益は約3.724億元（5.580億ドル）、2016年第2四半期に比べて29.1%増加、2015年第3四半期に比べて81.0%増加。

「弊社は業界と一緒に色々なことを経験しましたが、太陽光発電業界の巨大な潜在力に疑うことがありません。技術の持続的な進歩及びシステムコストの低下に伴って、太陽光発電はますます競争力がある事業になりました。そして、世界のエネルギー構造が変わって始めると思います。弊社はこれから引き続き会社の業務を開拓し、グリーンエネルギーの承諾を履行します。」とチンカンピンCEOはコメントした。